

PPP/PFI推進タスクフォース全体会合 第3回議事録

内閣府民間資金等活用事業推進室

PPP/PFI推進タスクフォース全体会合（第3回）
議事次第

日 時：平成29年6月8日（木）10:59～11:16

場 所：合同庁舎8号館8階特別中会議室

1. 開 会

議長挨拶

2. 議 事

PPP/PFI推進アクションプラン（平成29年改定版）について

3. 閉 会

議長代理挨拶

○議長補佐 それでは、ただいまから「PPP/PFI推進タスクフォース全体会合」を開催いたします。

本日はお忙しい中、御出席いただきましてまことにありがとうございます。

議長にかわりまして本日の議事の進行を務めます、内閣府大臣官房審議官の木下でございます。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、議事に入る前に、議長である和泉内閣総理大臣補佐官から御挨拶をまず頂戴したいと思います。

お願いします。

○議長 皆さん、どうも御苦労さまでございます。

このタスクフォースは、福田補佐官のリーダーシップのもと、重点分野の個別会合を精力的にこなしていただいて、着々と成果を上げております。

昨年策定されましたPPP/PFI推進アクションプランについて、しっかりフォローアップが行われまして、この改定版が決定されるという状況でございます。

後ほど進められるのか、あるいは今までの事務的な打ち合わせで御案内かもしれませんが、ポイントは、コンセッション事業などの重点分野にクルーズ船向け旅客ターミナル施設及びMICE施設を追加したということがあります。ちなみに、日本のインバウンドは2,400万を超えて、今年は相当な数字になると思うのですけれども、またクルーズ船も増えています。加えて、MICE施設の追加がございました。

そして、推進のための施策としまして、新たに「公的不動産における官民連携の推進」を追加しました。また、個別の具体策についてもしっかりブラッシュアップをしていただきました。ただ問題は、要優先検討事項としまして、人口20万人以上の公共団体に平成28年度末までにPPP/PFIをスムーズに進めるための優先的検討規程の整備ということをお願いしていましたが、これはまだ3分の2ということがございまして、速やかにこの策定の支援をまた関係の省と協力してやっていきたいと思っています。

この議論は国内の話なのですが、私はインフラの輸出も担当しているのですけれども、最近日本のインフラ協力というのはODAを中心にやってまいりましたが、どの国もある程度所得が上がってくると、いわゆる債務の対GDP比率、債務残高のGDP比率というのを気にしてしまっていて、極力PPPでやるものについては、PPPという意向が非常に増えてきています。かつての日本と同じように、発展途上国がどの国もきちんとしたPFI等の制度がないとか、一応建前上法律があってもその運用規程がないとか、そういうようになかなかうまく進まないのが実情であります。

おととい、ベトナムのフック首相が来られていましたが、ベトナムの運輸省と国土交通省との間で、高速道路のコンセッションによるPPPの覚書を結んで、具体的な既存の道路と新設道路をターゲットにやるというような動きもございまして、この会議は主に国内のことかもしれませんが、少し中長期的に考えると、この国内の経験を生かして、海外の中進国以上の国におけるPFI事業ということについても、非常に有効活用できるのではない

かということがございまして、単に国内でPFIを推進するのではなくて、そういった広い意味での経済協力の枠組みの中で日本のノウハウが生きてくると思っています。

ぜひ、皆様の協力を得まして、しっかりと実績を上げていきたいと思っておりますので、引き続き福田補佐官のリーダーシップのもとで、しっかりと仕事を進めていただきたくお願い申し上げます。

ありがとうございました。

○議長補佐 まことにありがとうございました。

それでは、議事に入ります。

本日の議題の「PPP/PFI推進アクションプラン（平成29年改定版）」について、内閣府PFI推進室から御説明をお願いします。

○内閣府民間資金等活用事業推進室 お世話になっております。内閣府PFI推進室参事官の坂本でございます。

それでは、概要を資料1に基づきまして、御説明をさせていただきます。

今回、特に概要のペーパーでも書かせていただきました、一番上の「背景」のところでございますけれども、ここは審議会、PFI推進委員会の先生方からも特に強調されていたところがございます。学校などの統廃合がよく話題になりますけれども、こういった多くの公共施設といったものの集約化などが進んでいます。さらに昨日もある自治体の首長さんにお会いしたのですけれども、プールが老朽化をして維持、管理がかなり苦しいという中で集約化が必要だという話も出てきて、PFIでぜひやりたいという話もあったところです。

そういった人口規模に関係なく、20万人以上というのはあるのですけれども、全ての自治体で必要な状況になってきているという中で、特にこういった人口減、あるいは料金収入が減るといような厳しい中で、やはり良質なサービスを提供していく。さらに新たなビジネスの機会を創出するということもありまして、PPP/PFIを国、地方公共団体一体となって進めていくという状況になっているところが、特に今回強調されたところがございます。

それから「改定のポイント」は、和泉議長からもお話ございましたとおり、特に福田補佐官に御指導賜っております「コンセッション事業等の重点分野」ということで、既存の昨年度までの6分野に加えて、新たに色がついた2つが追加になっているところがございます。各省庁の皆様にも多大な御尽力を賜りまして、特に水道については法律が今、非常に審議の状況が厳しい中で頑張ってくださいしているところがございますので、また、各事業についての御説明はあろうかと思っております。

そういった中で、先ほど和泉議長からもございましたように、ちょっと上に戻っていただいて恐縮ですけれども、「公的不動産における官民連携の推進」というところが今回さらに強調されたところがございます。

公園については、今回国土交通省から法律も出されていますけれども、PPP/PFI手法を

拡充していくという話。それから遊休文教施設、先ほど学校の話も出ましたが、授業がない、使っていない時間とかを有効に活用するという話ですとか、それから一番下にございますけれども、公共施設等総合管理計画、そして固定資産台帳の整備、これも総務省の御尽力を賜っているところですが、各自治体において、PFIを今後の施設整備においては優先的に検討していただく上で非常に重要な、特に公的不動産も活用していく上で、どこにどういったものがあるのか、どういう状態なのかというのをやはり民間の方々が投資をする上で非常に重要な資料になりますので、こういったところの御尽力も引き続き賜っていただければと考えております。

それから、先ほどの議長からの御説明にあった優先的検討については、真ん中のところの一番下ですが、20万人以上については、自治体を個別に内閣府としても訪問してまいりますし、これからはさらに20万人未満、昨日まさにお会いした自治体の首長さんも人口5万人程度の規模の自治体さんでしたけれども、非常にやる気のあるところについては、しっかりとバックアップをしていきたいということで、今回適用拡大を書いております。

それから、右側の地域のプラットフォーム。こちらはさらに広域化ということで取り組んでいきたいというところ。それから、民間の提案をさらに支援をしていくというところ。ワンストップの窓口についてもしっかり強化してやっていきたいと思っております。

また、引き続き各省庁の御説明もありますが、御協力よろしくお願いたします。

ありがとうございます。

以上でございます。

○議長補佐 説明ありがとうございました。

本アクションプランにつきまして、関係省庁の皆様から御発言、御質問等ございましたらお願いいたします。

特に集中強化期間を延長したところなどにつきまして、何か特段のコメントなどもございましたらお願いします。

お願いします。

○国土交通省下水道企画課 下水でございます。お世話になっております。

今回6件のところ、5件ということでございますが、やはり山本行革大臣からも御指摘ありましたように、結果が大事だと思っておりますので、結果が実際に公募をかけられますように努力してまいりたいと思っております。

1点だけ。昨年度、内閣府がデュージェレンスのための補正予算をいただきました。非常に効果がございまして、裾野が大きく広がりました。こちらも全力を尽くしますが、ぜひ黎明期については、ああいった予算がインセンティブとして非常に効果がありますので、御検討いただければと思います。

以上でございます。

○議長補佐 ありがとうございます。

同様に強化期間が延びた水道のほうも何かありますか。

○厚生労働省水道課 厚生労働省でございます。

厚生労働省といたしましては、内閣府としっかり連携いたしまして、今後集中強化期間であります平成30年度末までに、6件のコンセッション事業を具体化することを目標といたしまして、アクションプランに基づく取り組みを進めてまいりたいと考えております。

また、水道法の改正法案を提出しておりますけれども、これにおいてコンセッション方式を導入するといったことも積極的に取り組んでまいりたいと考えております。また、法案成立後もコンセッション制度の運用につきまして、専門家を交えた検討を進めてガイドライン等を作成いたしまして、適切な運用がなされるよう取り組んでまいりたいと考えております。

また、先導的に取り組む公共団体の支援ですとか、さらなる首長のトップセールス、また我々の官民連携推進協議会を使いまして、事業開始まで切れ目ない支援を行いたいと考えておりまして、コンセッション事業の着実な導入、促進に取り組んでまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○議長補佐 ありがとうございます。

今回のコンセッションの重点分野として新たに追加されました、クルーズ船向け旅客ターミナル施設、これは国交省ですけれども、それからMICE施設、これは観光庁ですが、それぞれについても何かあれば、御質問をお願いいたします。

○国土交通省産業港湾課 国土交通省港湾局でございます。

今般の平成29年度改定版のアクションプランからクルーズ船向け旅客ターミナル施設が重点分野に指定されました。国交省港湾局として、しっかりやっていきたいと思っております。平成29年度から平成31年度までの集中強化期間において、3件ということでございますので、3件を目指してしっかりやりたいと思います。

先行しておりますのは福岡市のコンセッションでございまして、福田補佐官からも御指導いただきながら、既に福岡市と調整をしておるところでございますので、まずはそこをしっかりと支援してまいりながら、その他の2件についても積極的に案件形成をやっていきたいと思っております。

どうぞよろしく願いいたします。

○議長補佐 ありがとうございます。

MICEのほうは何かございますか。

○観光庁 観光庁でございます。

今回、MICE施設ということで、平成29年から平成31年の集中強化期間で6件のコンセッションということで、こちらのほうは目標達成に向けてしっかり頑張っていきたいと思っております。先ほど話もありましたが、福岡が先行的な事例で進んでいますので、それを先行事例としながら後押しするとともに、ほかのところにも先行事例等も情報提供をしながら活用する自治体というのを増やしていこうと考えています。我が庁だけではなかなか難しい

ところがありますので、前に竹中先生からも私案にいただいた関係省庁というのが、国交省の中とあとは経済省などいろいろとありますので、関係省庁で連携して御協力をいただきながらやっていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○議長補佐 ありがとうございます。

そのほかの御省庁の方で、この際ですので何かありましたらお願いします。

よろしいですか。

よろしければ、意見交換はここまでとさせていただきます。

最後に、議長代理である福田内閣府大臣補佐官から御挨拶をお願いしたいと存じます。

お願いします。

○議長代理 福田でございます。

本日は本当にありがとうございます。

今、御説明にもありましたとおり、21兆円という目標に向かってみんなで頑張っていくと。その中で3分の1を占めるのが7兆円のコンセッションということで、新しいテーマでもありますので、このテーマでしっかりと数値目標を達成させていくことを一緒にやらせていただきたい。

重点分野の御紹介がありましたけれども、空港に関しては既に6件達成していただいて、先頭に立って牽引していただいているという状況だと思います。先頭であるがゆえに課題も多いということで、国直営事業である強みを生かしていただいて、課題の解決と官民の適正な役割分担を、引き継ぎうまくモデルとしてつくっていただければと思います。

道路も達成いただきまして、これはさっき議長からも御説明ありましたけれども、海外にも出て行くという流れもあるようですし、国内でもほかに取り組みたいというところがあれば、ぜひともサポートをいただければと思います。

上下水道はちょっと残念ではありましたが、下水道は去年政令の改正もやっていただいて、水道は法改正をこれからやるということで、制度的な部分でなかなか自治体側がやりたくてもできないというところについては、今年1年の取り組みでかなり措置をしていただいたと思いますし、地域の議会の皆さん、住民の皆さんに御理解いただくという大変な仕事があるということだと思いますので、これは一緒に現場に入って行って彼らを励ましながらやらせていただければと思います。

文教についてはこの間発表されましたが、法務省とも連携していただいて、奈良の刑務所のコンバージョンで、あれは博物館ですから文教施設の一号案件ということで、モデルケースも見えてきて、これからうまく広げていただければということだと思いますし、公営住宅もコンセッションとは違いますけれども、不動産の利活用を進めていただいているということだと思います。

クルーズとMICEは先ほどありましたけれども、これからですので、ちゃんとロケットスタートできるようにこれも一緒にやらせていただきたいと思っております。クルーズ、MICEが合わせて行われる福岡もそうですし、MICEに関しては、愛知でまたやろうという動きも出て

きているように思います。そういったところを一つ一つ丹念にみんなで一緒にフォローしながら、初めて現場で仕事をする人というのはなかなか孤独なものですので、この孤独な方々をみんなで応援するということをやりながら、モデルケースをしっかりとつくっていくと。モデルケースに意味があると思っただけならば、それを横で使っていこうという方は出てくると思いますので、最初が一番大変なところをうまく一緒に乗り越えて、引き続き頑張らせていただきたいと思いますので、政府一体で引き続きやらせていただくということで、また一年後、半年後のこの会議でしっかりと議長の前で進みましたということをお報告できるように取り組みましょう。

よろしく願いいたします。

○議長補佐 まことにありがとうございました。

最後に何か一言でもあればお願いします。

よろしいでしょうか。

それでは、本日はこれで閉会とさせていただきます。

皆様、本当にありがとうございました。